令和５年度　江戸川区立春江小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	・進んで学ぶ子　・じょうぶな子　・思いやりのある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	笑顔とやる気やさしさあふれる学校 進んで学ぶ子、じょうぶな子、思いやりのある子 子供たちを愛し、子供たちを伸ばし、教育への情熱を燃やす教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞地域と連携した教育活動の実施 ＜課題＞〇学力向上　〇教員の授業力向上　〇組織的学校運営の充実		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・外部委託による放課後補習教室を年間150日実施 パワーアップタイム（本校教員による補習教室）を年間35回実施 ・「江戸川っ子スタディウイーク」（各学期に1週間実施）における、ドリルパークへの取組 ・高学年において学期ごとに教科担任制の実施 ・東京ベーシックドリルの実施 ・校内研究、春江塾による教員の指導力向上	・児童アンケートで「授業の内容がわかる」についての肯定的回答が90%以上 ・東京ベーシックドリルの診断シートの平均正答率が前年度より上昇	B	A	・児童アンケートで93%の肯定的回答を得た。 ・放課後補習教室、パワーアップタイムを実施し、個に応じた指導をした。 ・毎学期ドリルパーク週間を実施し、既習内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣づけを行った。 ・東京ベーシックドリル週間を学期3回実施し、前学年の算数の既習事項の定着を図った。 ・校内研究（国語）、春江塾（全18回）を実施し、教員の指導力の向上につなげた。	B	・授業だけでなく、学習後の補習や家庭学習でタブレットが活用されていることで、理解につながっている。 ・東京ベーシックドリルや全国学力学習状況調査等で学習の定着について分析を図るのは大切なことである。 ・書く活動が少なくなっているのではないか。書いて覚えることも大切であるので、2つの活動をうまく取り入れるとよい。	・東京ベーシックドリル週間、ドリルパーク週間を引き続き実施し、自身の課題を理解し定着に向けて主体的に取り組める方法を検討する。 ・春江塾の実施を通して、教員同士が互いに学び合い高め合う研修を自主的に行う。 ・校内研究を通して、教員の指導力向上を図る。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・各学期に1単元以上、図書館やIPADを活用した探究的な学習の実施。 ・読書科校内OJT研修1回 ・学校応援団、図書館司書と連携した図書館整備と読み聞かせの実施	・児童アンケートで「読書や調べ学習が好き」についての肯定的回答が90%以上 ・図書館を使った調べる学習コンクールへの参加数の増加	B	B	・児童アンケートで80%の肯定的回答を得た。 ・図書館司書を活用し、調べ学習に使用する本の選書を依頼したり、調べ学習の方法を提示してもらったりした。 ・図書館を活用した調べる学習に取り組む児童が増え、調べる学習コンクールで入賞する児童も見られた。	A	・本以外にもタブレットを活用して調べるなど、様々な方法で、内容に適した調べ方ができるとよい。 ・自分で読みたいと思える本を選ぶことも必要なことである。	・学校応援団の協力も仰ぎ、調べ学習の本の選書、紹介などをしていく。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ 運動意欲や探究的な学習の実施・充実	・休み時間を活用した運動遊び「元気ッズタイム」を週1回実施 ・体育の授業の中での春江運動の実施 ・冬場に行う風の子運動（短縄、長縄、持久走）の実施	・児童アンケートで「運動が好き」についての肯定的回答が90%以上	B	A	・児童アンケートで88%の肯定的回答を得た。 ・元気ッズタイムを休み時間週1回計画通り実施し、体力向上につなげた。 ・風の子運動では、計画通りに短縄、持久走に継続して取り組んだ。カードを活用したり、保護者の参観を取り入れたりするなど、意欲的に取り組むための手立てを取り入れた。	B	・地域の取組でネオホッケーに参加した。また、ドッチビーの練習を週2回行うなど、運動の機会を地域でも確保している。 ・校庭が狭いこともあるので、引き続き工夫した体力向上の取組が求められる。	・「なわとびウィーク」、「元気ッズタイム」、「風の子運動」 の実施を通して体力の向上を図る。 ・体力テストで課題となった項目を体育の授業等を通して向上につなぐ。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・校内委員会を月1回以上開き、個に応じた指導、支援体制の整備 ・教員向け研修の実施 ・個別対応ができるエンカレッジルームの計画的運営 ・副籍交流および共同学習の設定 ・通常学級と特別支援学級の交流や児童への理解教育を実施	・児童アンケートで「授業の内容がわかる」についての肯定的回答が90%以上 ・複籍交流および共同学習を年3回実施	B	B	・児童アンケートで93%の肯定的回答を得た。 ・校内委員会を月1回開催し、支援を要する児童の把握と個に応じた指導、校内支援体制の整備を図った。 ・特別支援教育研修会を実施し支援、指導に生かした。 ・2年生対象に特別支援学級担任による理解教育を実施した。 ・特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習を児童の実態に応じて実施し、交流を図った。	B	・学校生活でたてわりでの異学年交流や、通常学級と特別支援学級との交流が行われていることは、とてもよいことである。学校外で異学年で遊ぶことが少なくなっている現在、交流活動は有意義である。	・特別支援理解教育を全校児童対象で実施する。 ・共同学習、交流学習を年間計画に位置付け、計画的に実施し、交流を深め理解につなげる。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・年3回児童アンケートの実施による、いじめの未然防止・早期発見 ・いじめ防止に特化した授業の年3回以上実施 ・いじめ防止対策委員会の設置 ・スクールカウンセラー、SSWとの連携による不登校の防止、改善	・児童アンケートで「学校が好き・楽しい」についての肯定的回答が90%以上	B	B	・児童アンケートで90%が「学校が楽しい」と肯定的回答をした。 ・年3回「友達アンケート」を実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につなげた。 ・いじめ防止に特化した授業を年3回以上実施し未然防止につながるようにした。 ・SSW、SCと連携し、児童への対応を行った。	A	・相談しやすい環境づくりが大切である。いろいろな大人が関われるとよい。 ・不登校は家庭とよく連携を図るようにしたい。 ・家庭の教育力が大切になっている。	・エンカレッジルームの充実を図るとともに、個別教室の開設等、児童の状態に応じた居場所、環境を整備する。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・教育活動について、学校ホームページへの公開 ・学校公開（土曜授業）の年4回実施、学校説明会（来年度入学予定者向け）の実施	保護者アンケートの項目で、肯定的評価80%以上	B	A	・教育活動をホームページに掲載し、実施内容の理解につなげた。 ・学校公開（土曜授業）を年4回、新1年生対象の説明会を実施し、教育活動の理解につなげた。	A	・ホームページにウインタースクールなど教育活動が紹介され,様子が分かった。日常的に学校の様子がアップされると、さらに学校の様子が伝わりやすくなると感じる。	・教員全員がホームページに教育活動を掲載できるようにし、学年での活動の様子等を見てもらえるようにする。 ・学校公開では、様々な教育活動を公開できるよう運営していく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会を年3回開き、意見交換する。 ・2学期末に保護者、地域に向けて教育活動についてアンケートを実施及び分析、改善を行う。	保護者アンケートの各項目で、「わからない」という回答が前年度より減少	A	A	・年3回の学校評議員会を開き、ご意見をいただいた。 ・本校の取組が保護者、地域に伝わるよう、アンケート実施前に取組をまとめたものを配布した。 ・アンケートを実施し次年度に生かしていく。 ・地域のまつり等への参加要請に答え、地域とのつながりに貢献した。	A	町会などの行事に、児童に参加してもらえて有難かった。	・地域の行事等には教員だけでなく、可能な限り児童の参加についても声掛け等を行い、地域との交流を深める。
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革プラン＞ 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・スクールサポートスタッフ（SSS）、副校長補佐の活用を促進する。 ・定時退勤日の実施	教員向けアンケートで肯定的評価80%以上	B	B	・スクールサポートスタッフの効果的な活用、C4thを活用した会議時間の削減を実施した。	B	・学校も忙しいが、児童も忙しくなっていると感じる。	・SSSの活用事例を紹介し、活用を促進する。 ・組織、体制の見直しを図る。
	＜小中連携教育の推進＞ 小中連携教育構想及び児童生徒間の交流の推進	・教員間の交流年1回実施する。部活動体験や体験学習の実施	・中学校の部活動体験と体験学習を実施した。	B	B	・近隣中学校の教員に授業公開を実施した。また、教員間で教科ごとに情報交換を行った	B		・引き続き情報交換を行い、連携を図っていく。